


# 第8回鎌倉名画座 小津安二郎生誕110年記念 「晩春」

2013年は、小津安二郎監督生誕110年、没後50年の記念年です。

「晩春」は小津作品戦後3作目にあたり、小津芸術、小津調といわれる作風が確立した作品です。  
小津監督を語るうえで不可欠の1本であるこの作品をぜひこの機会にお楽しみ下さい。

日 時	2013.3.16 (土) 13:30開場 14:00上映開始
会 場	鎌倉生涯学習センターホール
入 場 料	全席自由 前売:800円 当日:1,000円 *事前に完売した場合は当日券が無い場合もございますのでお早めにお求めください。
チケット取扱い	<p>&lt;店頭販売&gt; ビストロガレ (鎌倉生涯学習センター内) たらば書房 (鎌倉駅西口前) 鎌倉文学館、鍋木清方記念美術館</p> <p>&lt;電話予約・お問い合わせ&gt; 公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団 TEL 0467-23-3755 (営業日 火曜～土曜 9:00～17:00)</p>
主 催	(公財) 鎌倉市芸術文化振興財団 後援: 鎌倉市
映 画 情 報	<p>「晩春」1949年 108分 モノクロ 松竹大船作品 原作: 広津和郎「父と娘」 製作: 山本武 監督: 小津安二郎 脚本: 小津安二郎、野田高梧 撮影: 厚田雄春 美術: 浜田辰雄 音楽: 伊藤宣二 照明: 磯野春雄 出演: 原節子、笠智衆、宇佐美淳、月丘夢路、三宅邦子、杉村春子 ほか &lt;あらすじ&gt; 早くに妻を亡くし、27才になる娘と鎌倉に住む曾宮周吉 (笠智衆) は娘・紀子 (原節子) の縁談にヤキモキしている。 父・周吉が再婚する意向であると聞き、紀子も結婚を決意し、二人で、父娘最後の旅行として晩春の京都へ旅行にでかける。 間もなく結婚式を挙げ、新婚旅行に出発する紀子を見送ったのち、紀子の親友アヤから再婚するのですかと聞かれ、周吉は、そうでも言わなければ紀子はいつまでも嫁に行かないだろうと寂しく語り、孤独にリンゴの皮をむくのであった。</p>
	 <p>小津安二郎生誕110年記念プロジェクト／松竹株式会社 HP : <a href="http://www.shochiku.co.jp/ozu/">http://www.shochiku.co.jp/ozu/</a> Facebook : <a href="http://www.facebook.com/OzuYasujiroOfficial">http://www.facebook.com/OzuYasujiroOfficial</a></p>

第8回 鎌倉名画座

小津安二郎  
生誕110年記念

# 晩春

—ばんしゅん—

2013.3.16 [土]

開場 13:30 開演 14:00

鎌倉生涯学習センターホール

鎌倉市小町1-10-5 (鎌倉駅東口から徒歩3分)

全席自由: 前売: 800円 当日1,000円

チケット取扱い:


[窓口のみ] ビストログレ (鎌倉生涯学習センター内)

たらば書房 (鎌倉駅西口)

鎌倉文学館 鍋木清方記念美術館

[電話予約] 公益財団法人 鎌倉市芸術文化振興財団

TEL 0467 (23) 3755 (火~土 9:00~17:00)

主催:  公益財団法人 鎌倉市芸術文化振興財団 後援: 鎌倉市

小津安二郎  
OZU  
110th  
ANNIVERSARY

小津安二郎生誕110年記念プロジェクト/松竹株式会社

HP: <http://www.shochiku.co.jp/ozu/>

Facebook: <http://www.facebook.com/OzuYasujiroOfficial>



小津安二郎監督作品

# 晩春

ばんしゅん

1949年 108分 モノクロ 松竹大船作品

原作／広津和郎「父と娘」  
製作／山本武 監督／小津安二郎  
脚本／小津安二郎、野田高梧  
撮影／厚田雄春 美術／浜田辰雄  
音楽／伊藤宣二 照明／磯野春雄  
出演／原節子、笠智衆、宇佐美淳、月丘夢路  
三宅邦子、杉村春子 ほか

大学教授の曾宮周吉(笠智衆)は早くに妻を亡くし、27才になる娘の紀子(原節子)と鎌倉に住んでいた。周吉は、許嫁のいる服部(宇佐美淳)にまで声をかけ、この娘の縁談にヤキモキする。

一方曾宮に後妻の話が持ち上がり、察した娘紀子は複雑な思いで、父に問い正すと「その気である」という。彼女の気持ちは揺らぎ、仕方なく見合いを引き受けた承してしまう。そして最後の旅行に、晩春の京都へ出かけるのであった。

小津作品、戦後3作目にあたり、小津芸術、小津調といわれる作風が確立した作品。小津監督を語るうえで不可欠の1本。

映画には、文法がないのだと思う。  
これでは、文法がないのではない  
という型はない。  
優れた映画が出てくれば、  
それが独特の文法を  
作ることになるのだから、  
映画は思いのままに  
撮ればいいのだ。

小津安二郎

